

当院における心房抗頻拍ペーシングの使用経験

◎中山 侑紀¹⁾、柿本 将秀¹⁾、江藤 雄飛¹⁾、中津 脩平¹⁾、羽根 千尋¹⁾、平本 芳恵¹⁾、渡邊 優子¹⁾、松林 正人¹⁾
医療法人 三重ハートセンター¹⁾

【背景】心房性頻脈性不整脈（AT/AF）治療において、MINERVA 試験にて、心房抗頻拍ペーシング機能(a-ATP)が permanent AF への進行を抑制するなどの報告されている。2023年7月より Biotronik 社からも、ペースメーカーに a-ATP を有した、Amvia sky が使用可能となった。当院でも 2023年9月より同機種を導入したので、報告する。

【対象と方法】2023年9月～2024年3月に Amvia sky が植え込まれた、20例のうち、a-ATP 機能 ON にした 9例を対象とした。平均年齢 81±6.2 歳、男性 4例(44%)、適応疾患：洞不全症候群 7例、高度房室ブロック 2例。リード安定のため、植え込み約 1か月後に a-ATP 機能を ON にした。AT/AF エピソード数は心内心電図が確認できたものとした。フォローアップ期間を 2024年5月までとし、平均フォローアップ期間：84±47 日間。設定は当院基準により、1st：Ramp pacing、2nd：Burst+pacing、出力：6V/1.5ms、パルス数：11～13pulses とした。停止基準はデバイスの停止判定基準に準じた。【結果】対象症例 9例中、AT/AF イベントが出現した症例は 4例、a-ATP 作動した症例 4例。

心内心電図で波形の確認できた AT/AF エピソード数は 84回で、うち a-ATP 作動したのは 62回(74%)、自然停止 9回(11%)、P-P 周期不安定治療せず 12回(14%)、リード位置チェック 1回(1%)。成功回数は 23回(38%)。最長：4時間 2分。総 a-ATP 作動回数は、135回で平均 2.2±1.9回、最大 10回であった。【症例】80歳代、男性。260ms 程度の安定した AT に対して、Ramp(232-112ms 周期、13発)の作動を 1回行い、P-P 間隔が延長し、1.5s 後に頻拍が停止した。

【考察】MINERVA 試験のサブ解析にて、a-ATP が有効な心電図パターンとして、Long atrial cycle length、Regular rhythm が報告されている。本症例で、a-ATP にて AT/AF が停止した症例は、Regular rhythm で、有効性が高い頻拍であった。Biotronik の a-ATP は、AT/AF の P-P 周期が安定したものに対してのみ作動するが、P-P 周期が安定していない 12回に対して、作動が抑制されていた。【まとめ】a-ATP 作動例について報告した。有効性や作動状況については、今後さらなる検討が必要である。
三重ハートセンター 0596-55-8188